

# IVAC療法

患者ID : @PATIENTID

患者氏名 : @PATIENTNAME

身長 (cm)	体重 (kg)	体表面積 (m <sup>2</sup> )
HEIGHT01_Dc	\$WHEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与スケジュール : 1コース 28日

予定クール数 : 高リスク群 2クール (Dose-modified CODOX-Mと交互に)

使用薬剤 : エトポシド (VP-16) : エトポシド点滴静注液 100mg/5mL/V  
 イホスファミド (IFM) : イホスファミド 1000mg/V  
 シタラビン (Ara-C) : シタラビンN注 400mg/20mL/A, 1g/50mg/A  
 メスナ (MESNA) : ウロミテキサン注 100mg/1mL/A  
 メソトレキセート (MTX) : メソトレキセート注 5mg/V  
 ホリナートカルシウム (LV) : ロイコボリン注3mg/A, ロイコボリン錠5mg

使用基準 : 次コース開始時、Neut : 1,000/μL・Plt : 75,000/μL以上に回復していることを確認。

- ※ HbC抗体測定し、陽性ならTaqMan HBV検査までおこなうこと
- ※ 日和見感染症に注意。高尿酸血症、胃潰瘍 (PPIなど)、口内炎、便秘の予防について考慮すること
- ※ 中枢神経系障害や遅延性の骨髄抑制を防ぐため点滴時間3時間を厳守すること。
- ※ 66歳以上の症例はIFM1回投与量を1.0g/m<sup>2</sup>、Ara-C1回投与量を1.0g/m<sup>2</sup>にそれぞれ減量を考慮すること。
- ※ 発熱や発疹の対策としてAra-C投与前に副腎皮質ステロイドの静注を考慮すること。
- ※ シタラビンによる眼症状予防に0.1%サンベタゾン点眼液をday1~day11まで使用すること。  
(day1~4 : 1日6回点眼、day5~11 : 1日4回点眼)
- ※ 体液貯留傾向があるため、毎日体重測定を行い、体液管理を厳重に行うこと。
- ※ day7よりG-CSFをNeut1,000/μL以上に回復するまで使用。

薬剤	投与量	計算値	投与量 (mg) or (A)	投与日
エトポシド	60 mg/m <sup>2</sup>	#VALUE!		1~5
イホスファミド	1500 mg/m <sup>2</sup>	#VALUE!		1~5
シタラビン	2000 mg/m <sup>2</sup>	#VALUE!		1~2
ウロミテキサン	5 A/回			1~5
メソトレキセート注	12 mg/body		12	5
プレドニン	20 mg/body		20	5

## << タイムスケジュール >>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

開始日 (Day1) : 1月1日 (水) ~ 1月2日 (木)

時刻	①	②	③	④	⑤	⑤'	⑥	⑦	⑧
0時00分	①	生理食塩液 50mL + グラセロン 1A + デキサート13.2mg							
		15分で点滴静注							
0時15分	②	生理食塩液 375.0mL + シタラビン注 0mg							
		3時間で点滴静注							
								0.0 mL	
3時15分	③	生理食塩液 50mL							
		フラッシュ							
3時30分	④	生理食塩液 500mL + エトポシド (VP-16) 0mg							
		90分で点滴静注							
								0.0mL	
5時00分	⑤	生理食塩液 250mL + イホスファミド (IFM) 0mg							
		2時間で点滴静注							
5時00分	⑤'	生理食塩液 50mL + ウロミテキサン 0A (イホスファミド投与時)							
		15分で点滴静注							
7時00分	⑥	生理食塩液 50mL							
		フラッシュ							
9時00分	⑦	生理食塩液 50mL + ウロミテキサン 0A (イホスファミド4時間後)							
		15分で点滴静注							
12時15分	⑧	生理食塩液 375.0mL + シタラビン注 0mg							
		3時間で点滴静注							
								0.0 mL	

13時00分

⑨ 生理食塩液 50mL  
15分で点滴静注

+ ウロミテキサン

0A

(休スファミド 8時間後)

15時15分

⑩ 生理食塩液 50mL  
フラッシュ

day3, 4

1月3日 (金)

1月4日 (土)

外用

0.1%サンベタゾン点眼液 (シタラビンによる眼症状予防) 1日6回点眼

① 側管

0時00分	①	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	グラセロン 1 A	+	デキサート13.2mg	
0時15分	②	生理食塩液 500mL 90分で点滴静注	+	エトポシド (VP-16)		0mg	0.0mL
1時45分	③	生理食塩液 250mL 2時間で点滴静注	+	イスマイト (IFM)		0mg	
1時45分	③'	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	ウロミテキサン		0A	(イスマイト投与時)
3時45分	④	生理食塩液 50mL フラッシュ					
5時45分	⑤	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	ウロミテキサン		0A	(イスマイト 4 時間後)
9時45分	⑥	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	ウロミテキサン		0A	(イスマイト 8 時間後)

day5

1月5日 (日)

外用

0.1%サンベタゾン点眼液 (シタラビンによる眼症状予防) 1日4回点眼

① 側管

0時00分	①	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	グラセロン 1 A	+	デキサート13.2mg	
0時15分	②	生理食塩液 500mL 90分で点滴静注	+	エトポシド (VP-16)		0mg	0.0mL
1時45分	③	生理食塩液 250mL 2時間で点滴静注	+	イスマイト (IFM)		0mg	
1時45分	③'	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	ウロミテキサン		0A	(イスマイト投与時)
3時45分	④	生理食塩液 50mL フラッシュ					
5時45分	⑤	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	ウロミテキサン		0A	(イスマイト 4 時間後)
9時45分	⑥	生理食塩液 50mL 15分で点滴静注	+	ウロミテキサン		0A	(イスマイト 8 時間後)

20時00分

⑦ メソトレキセート注 **12mg** + プレドニン **20mg** + 生理食塩液 2 mL  
 医師により髄注を施行する。  
 生食5mlをとり、メソトレキセート注5mgのパールに溶解し2mlをとる。その溶解液2mlに残りのメソトレキセート注、プレドニン注を溶解する。

day6

1月6日 (月)

外用

0.1%サンベタゾン点眼液 (シタラビンによる眼症状予防) 1日4回点眼

20時00分

含嗽・内服

ロイコボリン錠5mg3T 1 x (1)

MTX髄腔内投与の24時間後にロイコボリン錠を内服する。

day7

1月7日 (火)

day11 1月11日 (土)

外用

0.1%サンベタゾン点眼液 (シタラビンによる眼症状予防) 1日4回点眼

## REFERENCE

Graham M. Mead, Sharon L. Barrans, Wendi Qian et al: blood 2008 112:2248-2260  
 A prospective clinicopathologic study of dose-modified COOX-M/IVAC in patients with sporadic Burkitt lymphoma defined using cytogenetic and immunophenotypic criteria(MRC/NCRI LY 10 trial)  
 2014年7月度化学療法プロトコル審査委員会承認: 2014年7月14日 更新: 2016年2月8日